

# News Release

平成20年10月30日

パイオニア株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 須藤 民彦  
 (コード番号 6773 東証第一部)  
 問合せ先 常務取締役経理部長 岡安 秀喜  
 電 話 (03) 3494-1111

## 平成21年3月期 連結業績予想の修正等について

平成20年5月13日に発表した平成21年3月期連結業績予想の修正等について、次のとおりお知らせします。

### 1. 平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）連結業績予想の修正

平成21年3月期連結業績予想について、次のとおり修正します。

(金額単位 百万円)

	営業収入	営業利益 (△損失)	税引前利益 (△損失)	当期純損失
前回発表予想 (A)	780,000	7,000	△7,500	△19,000
今回修正予想 (B)	700,000	△17,000	△54,000	△78,000
増減額 (B-A)	△80,000	△24,000	△46,500	△59,000
増減率 (%)	△10.3	—	—	—
〔ご参考〕前期実績 (平成20年3月期)	774,477	10,907	3,434	△17,992

営業収入は、主要製品における競争の激化や景気の後退および円高の影響を受け、カーエレクトロニクス事業およびホームエレクトロニクス事業ともに計画を下回ることにより、前回予想の7,800億円から7,000億円に修正します。

営業損益は、売上の減少による損益悪化や円高の影響を見込んだことなどにより、前回予想の70億円の利益から170億円の損失に修正します。また、ディスプレイ事業の構造改革およびホームエレクトロニクス事業の損益改善について、追加施策を実施することなどにより、当期に計上を見込む事業構造改革費用が150億円から290億円に増加したことや、有価証券の評価損を見込んだことにより、税引前損失は75億円から540億円に修正します。当期純損失は、繰延税金資産の評価に伴う税金費用の増加を見込んだことにより、190億円から780億円に修正します。

なお、業績予想における為替の前提レートは、米ドルは前回予想より5円円高の1米ドル=100円、ユーロは前回予想より25円円高の1ユーロ=130円を想定しています。

## 2. 平成21年3月期第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）連結実績と連結業績予想との差異

平成21年3月期第2四半期連結累計期間の連結実績について、平成20年5月13日に発表した第2四半期連結累計期間の連結業績予想との差異が生じたので、お知らせします。

（金額単位 百万円）

	営業収入	営業利益 (△損失)	税引前利益 (△損失)	当期純利益 (△損失)
前回発表予想 (A)	350,000	△15,000	△15,000	△18,000
当第2四半期 連結累計期間実績 (B)	327,042	△13,091	△36,877	△52,978
増減額 (B-A)	△22,958	1,909	△21,877	△34,978
増減率 (%)	△6.6	—	—	—
〔ご参考〕前年同期実績 (平成20年3月期 第2四半期連結累計期間)	383,161	2,262	17,645	9,936

営業収入については、カーエレクトロニクス事業において、一部の新製品の導入が遅れたことや、欧米の市場縮小により売上が計画を下回ったこと、および競争の激化や景気後退の影響を受け、ホームエレクトロニクス事業においても売上が計画を下回ったことにより、327,042百万円となりました。

営業損失については、13,091百万円となりました。また、税引前損失は、退職プログラムの実施に伴う事業構造改革費用15,616百万円や有価証券評価損を計上したことにより、36,877百万円となりました。当期純損失は、繰延税金資産の評価に伴う税金費用の増加により、52,978百万円となりました。

### 見通しに関する注意事項

当発表資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入、急速な技術開発、厳しい価格競争、主観的で変化しやすい消費者の嗜好等を特徴とする、競争の激しい市場において、評価の高い製品やサービスを継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)事業に影響を与える技術進展に応じて、競争し、販売戦略を策定、成功させる能力、(6)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(7)ブランドイメージを継続的に向上させる能力、(8)他社との合弁や提携の成功、(9)事業構造改革の成功、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

以上